

第 75 回保健文化賞を受賞して

JA 尾道総合病院 副院長 消化器内科 花田敬士

このたび、日本消化器内視鏡学会（田中信治理事長）からのご推薦により、第 75 回保健文化賞を受賞いたしました。この賞は保健衛生の向上などに貢献した団体、個人を表彰する賞（第一生命保険主催、厚労省、朝日新聞厚生文化事業団、NHK 厚生文化事業団が後援）です。

当地区では、当院および尾道市医師会を中心に 2007 年に開始した『膵癌早期診断プロジェクト（尾道方式）』の取り組みを精力的に展開し、現在までに尾道地域医療圏における早期診断例の増加、5 年生存率の改善などの成果を生み、同様の取り組みが全国 30 カ所以上で展開されています。現在、膵癌の 5 年生存率は全国では 8.5%とされていますが、早期診断例が増加した当地区では 20%前後に改善してきています。膵癌の危険因子（糖尿病、喫煙、大量飲酒、家族歴、膵嚢胞、膵管拡張など）を有する症状のない患者様に介して、地域の開業医の先生方に腹部超音波や血液検査を介入いただき、軽微な異常があった場合でも積極的に当院を含む中核施設にご紹介いただくアルゴリズムを展開しております。

尾道地区の取り組みおよび成果は広島県でも高い評価を頂き、広島県、広島県医師会、広島大学で構成される地域保健対策協議会での 3 年間の議論を経て、県内の 2 次医療圏ごとに尾道方式に準じた取り組みを行う Hi-PEACE プロジェ

クトが 2022 年 10 月から開始されました。今後、広島県下全域での予後改善へ期待が高まっています。2023 年 12 月には東京（明治記念館）にて受賞式、および皇居での天皇皇后両陛下の拝謁があり、この賞の重みを感じております。

最後になりましたが、膵癌早期診断の取り組みに対して全面的にご協力頂いている JA 尾道総合病院のスタッフ、尾道市および近隣医師会の先生方、尾道市、広島県の行政スタッフ、Hi-PEACE プロジェクトをご指導いただいている岡教授をはじめ第一内科膵臓研究室のスタッフ、また第一内科関連施設の先生方に心から感謝申し上げます。

